

直喩 シミリ	【明喩】ある事物を表現するのに、それと似た別の事物で例える。「ような」「みたい」「ごとし」などの明示的マーカーを用いる					
	ようだ	まるで夢のようだ。	まるで	まるで、猿のような面をしている。		
	みたいに	ヒマラヤみたいに高い山。	さながら	さながら、冬の景色だった。		
	ごとし	過ぎたるは及ばざるがごとし。	あたかも	あたかも、父のように感じた。		
隠喩 メタファ	【暗喩】2つの事物の【類似性】に基づいて、理解しやすい具象概念で表現する。直接喩えず、特徴を暗示する。					
	人生は旅だ。	パソコンが凍る。	約束を破る。	たい焼き 目玉焼き 月見うどん	花吹雪	
	彼は医者のお卵だ。	彼は歩く辞書だ。	あの人は悪魔だ。	表情が曇る。	猫背 鳥肌 太鼓腹	白雪姫
換喩 メトニミ	2つの事物の【隣接性】に基づいて、別の意味を表す。業界用語や隠語は、換喩から生まれやすい。窓際族、霞が関の抵抗 【省略】が働く					
	夜は鍋だ。	きつねうどん	たこ焼き	隣の部屋がうるさい。	耳を傾ける。	筆を執る。
	白バイに捕まる。	漱石を読む。	永田町の常識	ユニフォームを脱ぐ。	あくびが出る。	赤ずきんちゃん
提喩 シネクドキ	ある事物を表現するのに、【包括関係】にある、別の事物で表す方法。上=上位観念 下=下位観念 □上で下=特殊化 □下で上=一般化					
	花見（上下）	焼き鳥（上下）	親子丼（上下）	手が足りない。（下上）	ご飯を食べる。（下上）	
	酒は一滴も飲めません。（下上）	パンだけでは生きられない。（下上）	人魚姫（上下）			
擬人法	【修辞技法】人間でないものを、人間に見立てて表現。 動作 性質 外観（状態）			音喩	オノマトペで物事に音をつける	
	風が頬をなでる。空が泣く。気難しい車。王者のようなライオン。				キョロキョロしながら歩く。 雨がしとしと降っている。	
反語的賛辞	達筆すぎて、私には読めません。（皮肉）	転喩	私は彼のお通夜に行った。=彼は死んだ。（後→前：暗示） バナナの皮を踏んでしまった。=転んだ。（前→後：暗示）			
反語疑問	誰があんな人と結婚するもんですか。（強否定）	諷喩	朱に交われれば赤くなる。（遠回しに推測させる表現）：「ふうゆ」 彼は狡猾な狐だ。 寓喩ともいわれる。「言葉のあや」			